

以下の支援を受けています



基盤研究 (S) (代表: 狩俣繁久)
言語系統樹を用いた琉球語の比較・歴史言語学的研究 17H06115



基盤研究 (B) (代表: 沈力)
<語>の本質に関する総合的研究—孤立型・膠着型・複統合型言語の語形成と句形成— 19H01261



基盤研究 (B) (代表: Narrog Heiko)
日本語と近隣言語における文法化の基礎的研究 16H03411



南琉球宮古語における 複合と 語性(wordhood)

下地理則
(九州大学)



参照文献リスト↑



本発表の研究対象： 宮古語（伊良部島長浜方言）の「複合語」

- (1) **japa-muci** **azima-muci** **mma-muci**
 柔らか-餅 甘-餅 美味し-餅
 「柔らかい餅」 「甘い餅」 「美味しい餅」
- (2) **japa-azima-mma-muci**
 柔らか-甘-美味し-餅
 「柔らかくて甘くて美味しい餅」

本発表の研究対象：
宮古語（伊良部島長浜方言）の「複合語」？

- (3) **japa-azima-mucii** ⇔ **azima-japa-mucii**
柔らか-甘-餅 甘-柔らか-餅
「柔らかくて甘い餅」 「甘くて柔らかい餅」 (順序入れ替え)
- (4) **[kui=jarruu kaa=nu japa]-mucii=u** **mucii kuu.**
これ=より 皮=が 柔らか-餅=を 持って こい
「これより皮が柔らかい餅を持ってこい。」 (語根が項を支配)
- (5) **azima-nausinu-mucii=nu=ga** **zaukar?**
甘-どんな-餅=が=FOC 良い
「甘くてどんな餅がいい？」 (語根の疑問化)

本発表の研究対象：
宮古語（伊良部島長浜方言）の「複合語」？

- (3) **japa-azima-mucii** ⇔ **azima-japa-mucii**
柔らか-甘-餅 甘-柔らか-餅
「柔らかくて甘い餅」 「甘くて柔らかい餅」 (順序入れ替え)
- (4) **[kui=jarruu kaa=nu japa]-mucii=u** **mucii kuu.**
これ=より 皮=が 柔らか-餅=を 持って こい
「これより皮が柔らかい餅を持ってこい。」 (語根が項を支配)
- (5) **azima-nausinu-mucii=nu=ga** **zaukar?**
甘-どんな-餅=が=FOC 良い
「甘くてどんな餅がいい？」 (語根の疑問化)

本発表の目的： Type 1 複合名詞の語性

Type 1

- 構成的
- 語根が独立の韻律ドメイン
- 形態的緊密性はある程度ある
- 統語的操作（句の包摂, etc.）OK

Type 2

語彙的・非構成的
語形全体で1つの韻律ドメイン
形態的緊密性は極めて強固
統語的操作 NG

	複合名詞	複合動詞	複合形容詞
Type 1	japa-mucii 柔らか-餅 「柔らかい餅」	mii-pazimi-r 見る-始める-PRES 「見始める」	
Type 2	avva-vci 油-口 「おしゃべり」	niv-bždar-ø 寝る-低まる-PRES 「寝込む」	cimu-daka 心-高い 「驕った」

本発表の目的： Type 1 複合名詞の語性

- 本発表で示すこと：
 - 典型的な語と典型的な句の両側面を持つ
 - 語と句の間の第三のレベル（cf. 拘束句, 宮岡2015）？
 - プロトタイプで捉えるべき？

ドメイン		現象	普通の 合成語	Type 1 複合語	句
形態的 緊密性		内部要素間への語の挿入	NG	NG	OK
		内部要素の順序替え	NG	NG/OK	OK
統語操作の可否		句の包摂	NG	OK	OK
		語根の疑問化	NG	OK	OK
音韻語性	形態音韻論	重子音化（連声）する	OK	NG	NG
		/ia/, /iu/の1音節化	OK	NG	NG
	韻律	語根が独自の韻律ドメイン	NG	OK	OK

準備

伊良部の形容詞：修飾 vs. 叙述，指示性，情報構造で多様な形式を使い分け(Shimoji 2008)

Adj語根	<p>uri=a daizna taka-jama 「あれはすごく高い山だ。」 それ= は 大変な 高-山</p>	N 修飾
重複語形	<p>takaa-taka=nu jama=u=ba miirairusi? 「高い山見える？」 高-高=の 山=を=ば 見える</p> <p>kabz-tur=nu=du takaa-taka maiur 「凧が高く飛んでいる」 紙-鳥=が=ぞ 高-高 飛んでいる</p>	
ク語形	<p>unu jama=a taka-f=du ar 「その山は高い」 その 山=は 高-く=ぞ ある</p>	叙述
モノ語形	<p>unu jama=a taka-munu 「その山は高い」 その 山=は 高-い</p>	
カリ語形	<p>unu jama=nu=du taka-kar 「その山が高い」 その 山=が=ぞ 高-い</p>	

名詞修飾の使い分け： Nの指示性(referentiality)に違いがある（下地2018）

Adj語根	uri=a daizna taka-jama 「あれはすごく高い山だ。」 それ= は 大変な 高-山	N 修飾
重複語形	takaa-taka=nu jama=u=ba miirairusi? 「高い山見える？」 高-高=の 山=を=ば 見える	
ク語形	unu jama=a taka-f=du ar 「その山は高い」 その 山=は 高-く=ぞ ある	V 修飾
モノ語形	unu jama=a taka-munu 「その山は高い」 その 山=は 高-い	叙述
カリ語形	unu jama=nu=du taka-kar 「その山が高い」 その 山=が=ぞ 高-い	

Adj語根の拘束性：名詞述語っぽく振る舞えるか（宮古語の他の方言について陶2020も参照）

mma- 「美味しい」

「豚の臓物のお吸い物を作ったから食べてみて。どう？」
→ *mma. (^{0k}mma-munu, ^{0k}mma-kam, ^{0k}mmaa-mma, etc.)

2モーラ語根は
全て拘束

panta- 「忙しい」

「彼女は最近どう？」
→ *panta-. (^{0k}panta-munu, ^{0k}panta-kam, ^{0k}pantaa-panta, etc.)

3モーラ語根は
拘束・自由いずれも

ssjana 「汚い」

「あの人はあまり掃除しないらしいね。お家はどんな感じ？」
→ ^{0k}ssjana. (^{0k}ssjana-munu, ^{0k}ssjana-kam, ^{0k}ssjanaa-ssjana, etc.)

4モーラ以上の語根は
ほぼ自由

jasidai 「安い」

「このお酒は高いねえ。で、そのお酒はどう？」
→ ^{0k}jasidai. (^{0k}jasidai-munu, ^{0k}jasidai-kam, ^{0k}jasidaii-jasidai, etc.)

伊良部のType 1複合名詞： Adj/N語根とN語根を並置したもの

	普通の合成語	拘束Adj語根 + N語根	自由Adj語根 + N語根	Adj語形+GEN +N
Type 1	mma-kar saki うま-NPST 酒 「うまい酒」	mma-zaki (← mma- saki) うま-酒 「うまい酒」	jasidai-zaki (← jasdai- saki) 安-酒 「安い酒」	mmaa-mma=nu saki うま-うま=の 酒 「うまい酒」
Type 2		avva-vci (← avva- fc) 油-口 「おしゃべり」	aka-vva (← aka + ffa) 赤-子 「赤子」	
	連濁NG	連濁OK		連濁NG

連濁が観察される構造：

Adj_{1~n}-N
N_{1~n}-N



当該構造の一般化：

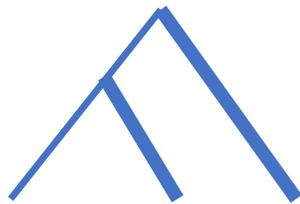
**Nをヘッドとする
語根の並置構造**



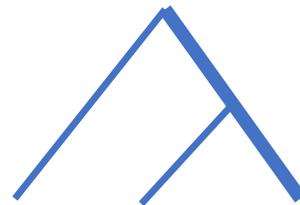
左記の構造を
複合名詞と呼んでおく

伊良部の連濁：日本語よりも規則的

- ライマンの法則はこの方言でも有効（下地2018）
- 連濁は
 - 「あるノードのヘッドでのみ生じる」（下地2018）
 - 「上位で生じていたら下位も生じる」（cf. 池間方言, 周2019）



(6) ffu-zata-gaas (7)
 ffu-zata-kaas
 *ffu-sata-gaas
 黒い-砂糖-菓子
 「黒砂糖のお菓子」



ffu-sata-gaas
 *ffu-zata-gaas
 *ffu-zata-kaas
 黒い-砂糖-菓子
 「黒い砂糖菓子」

ドメイン		現象	普通の合成語	Type 1 複合語	句
形態的緊密性		内部要素間への語の挿入	NG	NG	OK
		内部要素の順序替え	NG	NG/OK	OK
統語操作の可否		句の包摂	NG	OK	OK
		語根の疑問化	NG	OK	OK
音韻語性	形態音韻論	重子音化（連声）する	OK	NG	NG
		/ia/, /iu/の1音節化	OK	NG	NG
	韻律	語根が独自の韻律ドメイン	NG	OK	OK

形態論的緊密性：内部要素間への語の挿入

確認助詞=i 「～ね」の挿入

(=ca 「だとさ」, mmja 「もう」などでも大体同じ)

(8) 句の切れ目ならOK

mmaa-mma=nu=i, cuu-(*=i)zaki=nu=i, atam=mi.

うま-うま=の=ね

強-酒=が=ね

あった=ね

「美味しくてね, 強い酒がね, あったよね。」

(9) 句の切れ目ならOK

mma-karii=i, cuu-(*=i)zaki=nu=i, atam=mi.

うま-くて=ね

強-酒=が=ね

あった=ね

「美味しくてね, 強い酒がね, あったよね。」

普通の合成語内部はNG Type 1複合名詞内部もNG

(10) (複合以外の) 合成語の内部 : NG

jarabi-(*=i)gama-(*=i)mmi=nu=i,

子供 -指小辞 -複数 =が=ね

「子供たちがね, いたよね。」

utam=**mi**.

いた=ね

(11) Type 1複合名詞内部 : NG

mma-(*=i)cuu-(*=i)zaki=nu=i,

うま-強-酒=が=ね

「美味しく強い酒がね, あったよね。」

atam=**mi**.

あった=ね

ドメイン		現象	普通の合成語	Type 1 複合語	句
形態的緊密性		内部要素間への語の挿入	NG	NG	OK
		内部要素の順序替え	NG	NG/OK	OK
統語操作の可否		句の包摂	NG	OK	OK
		語根の疑問化	NG	OK	OK
音韻語性	形態音韻論	重子音化（連声）する	OK	NG	NG
		/ia/, /iu/の1音節化	OK	NG	NG
	韻律	語根が独自の韻律ドメイン	NG	OK	OK

形態論的緊密性：内部要素の順序替え

内部要素の入れ替え(Dixon and Aikhenvald's 2002 “fixed order”)

- 語根と接辞の合成語

tur-gama-mmi → *tur-mmi-gama, etc.

鳥-DIM-PL
「小鳥たち」

- Type 2複合名詞

mma-zza → *zza-mma

母-父
「親」

mi-pana → *pana-mi

目-鼻
「顔」

内部要素の入れ替え

(12) **aparagi-umukutu-midum**

美し-賢-女

「美しくて賢い女」



(12') **umukutu-aparagi-midum**

賢-美し-女

「賢くて美しい女」

(13) **mma-cuu-zaki**

うま-強-酒

「美味しくて強い酒」



(13') **cuu-mma-zaki**

強-美味し-酒

「強くて美味しい酒」

ただし・・・

(14) **jasdai-mma-zaki**

安い-美味しい-酒
「安くて美味しい酒」

***mma-jasdai-zaki**

(15) **aparagi-japa-midum**

美し-柔らか-女
「美しくて穏やかな女」

***japa-aparagi-midum**

順序入れ替え：制限がありそう

- (14) jasdai-mma-zaki
安い-美味しい-酒
「安くて美味しい酒」
(*mma-jasdai-zaki)
- (15) aparagi-japa-midum
美し-柔らか-女
「美しくて穏やかな女」
(*japa-aparagi-midum)
- (16) jasdai-mma-zaki
安-美味し-酒
「安くて美味しい酒」
(*mma-jasdai-zaki)
- (17) aparagi-japa-midum
美し-柔らか-女
「美しくて穏やかな女」
(*japa-aparagi-midum)

- 語彙的にこの並びが決まっている？ (cf. mi-pana 「顔」, mma-zza 「父母」)
- 文法規則としての制限？
cf. 英語の修飾形容詞の順序制限 (Thompson 1988) : big white house/*white big house
- どちらかによって、語っぽいか句っぽいかの評価に大きく関わる。
- 順序替えの事実は宮古語研究でほとんど言及がない (下地2018, 周2019)。いろいろな組み合わせを試して、さらなる調査が必要。

ドメイン		現象	普通の合成語	Type 1 複合語	句
形態的緊密性		内部要素間への語の挿入	NG	NG	OK
		内部要素の順序替え	NG	NG/OK	OK
統語操作の可否		句の包摂	NG	OK	OK
		語根の疑問化	NG	OK	OK
音韻語性	形態音韻論	重子音化（連声）する	OK	NG	NG
		/ia/, /iu/の1音節化	OK	NG	NG
	韻律	語根が独自の韻律ドメイン	NG	OK	OK

統語操作の可否：句の包摂

句の包摂

- Adj語根は、名詞と複合したまま、まるで連体節の述語のように、独自の修飾要素をとり、句を形成する。

japa -mucii
柔らか-餅
「柔らかい餅」

[kui=jarruu japa]-mucii
これ=CMPR 柔らか-餅
「これより柔らかいもち」

連体節構造との比較

(18) **[kui=jarruu japa]-mucii**

これ=より 柔らか-餅

「これより柔らかい餅」

(19) **[kui=jarruu japa-kar]_{Clause}**

これ=より 柔らか-NPST

「これより柔らかい餅」

mucii_{Head}

餅

句の包摂

- 付加詞だけでなく，項もとることができる

(20) [kui=jarruu icgu kaa=nu japa]-mucii
これ=より いつも 皮=が 柔らか-餅
「これよりいつも皮がやわらかい餅」

句の包摂

- Type 2 複合名詞の場合は，句の包摂は不可能。

(21) [**kaa=nu** **ffu**]-gii
bark=NOM black-tree
'a black-barked tree' (皮が黒-木)

(22) [**kaa=nu** **ffu**]-ki
bark=NOM Kuroki.tree
'a Kuroki-tree tree whose bark is black' (皮がクロキ)



ドメイン		現象	普通の合成語	Type 1 複合語	句
形態的緊密性		内部要素間への語の挿入	NG	NG	OK
		内部要素の順序替え	NG	NG/OK	OK
統語操作の可否		句の包摂	NG	OK	OK
		語根の疑問化	NG	OK	OK
音韻語性	形態音韻論	重子音化（連声）する	OK	NG	NG
		/ia/, /iu/の1音節化	OK	NG	NG
	韻律	語根が独自の韻律ドメイン	NG	OK	OK

統語操作の可否：語根の疑問化

内部要素の疑問化

(23) **azma-japa-mucii=nu=du**

甘-柔らか-餅=が=ぞ

「甘くて柔らかい餅がいい」

zau-kar.

良-い

内部要素の疑問化

- (23) **azma-japa-mucii=nu=du** **zau-kar.**
甘-柔らか-餅=が=ぞ 良-い
「甘くて柔らかい餅がいい」
- (24) **azma-nausinu-mucii=nu=ga** **zau-kar?**
甘-**どんな**-餅=が=か 良-い
「甘くてどんな餅がいい？」

内部要素の疑問化

- (23) **azma-japa-mucii=nu=du** **zau-kar.**
甘-柔らか-餅=が=ぞ 良い-NPST
「甘くて柔らかい餅がいい」
- (24) **azma-nausinu-mucii=nu=ga** **zau-kar?**
甘-**どんな**-餅=が=か 良い-NPST
「甘くてどんな餅がいい？」
- (25) **azma=narrasii** **nausinu** **mucii=nu=ga**
甘い=であって どんな 餅=が=FOC
zau-kar?
良い-NPST
「甘くてどんな餅がいい？」 (こちらの方が自然との判定もある)

ドメイン		現象	普通の合成語	Type 1 複合語	句
形態的緊密性		内部要素間への語の挿入	NG	NG	OK
		内部要素の順序替え	NG	NG/OK	OK
統語操作の可否		句の包摂	NG	OK	OK
		語根の疑問化	NG	OK	OK
音韻語性	形態音韻論	重子音化（連声）する	OK	NG	NG
		/ia/, /iu/の1音節化	OK	NG	NG
	韻律	語根が独自の韻律ドメイン	NG	OK	OK

音韻語性：重子音化

重子音化

* $C_{\mu}.V \rightarrow C_{\mu}.CV$ (音韻語内の制限) (日本語の「本を」(/hoN.o/)のような発音は不可。hon.no)

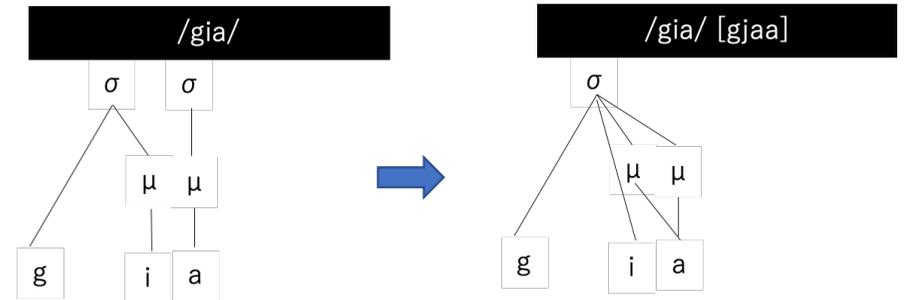
- 語内
 - niv- 「寝る」 + -a (意志) → niv-**va**
 - par- 「入る」 + -a (意志) → par-**ra**
 - kiban 「貧しい」 + -asii (付帯状況) → kiban-**nasii** 「貧しくて」
- 語と接語 (拡張語)
 - kiban 「貧しい」 + =a (主題) → kiban-**na** 「貧しいのは」
- 名詞句 + コピュラ (語と語の境界)
 - kiban 「貧しい」 + atar 「だった」 → kiban atar 「貧しかった」
- Type 1 複合名詞
 - iv- 「重い」 + is 「石」 → iv-isi 「重い石」
 - kar- 「軽い」 + is 「石」 → kar-isi 「軽い石」 (cf. Type 2: karsi 「軽石」)
 - kiban 「貧しい」 + anna 「母」 → kiban-anna 「貧しい母」

ドメイン		現象	普通の合成語	Type 1 複合語	句
形態的緊密性		内部要素間への語の挿入	NG	NG	OK
		内部要素の順序替え	NG	NG/OK	OK
統語操作の可否		句の包摂	NG	OK	OK
		語根の疑問化	NG	OK	OK
音韻語性	形態音韻論	重子音化（連声）する	OK	NG	NG
		/ia/, /iu/の1音節化	OK	NG	NG
	韻律	語根が独自の韻律ドメイン	NG	OK	OK

音韻語性： /ia/, /iu/の1音節化

/ia/, /iu/の1音節化

*ia → [jaa], iu → [juu] (音韻語内の制限)



• 語内

- idi- 「出る」 + -ur (PROG) → idiur [id^ju:ɾ] 「出ている」
- pžgi 「ひげ」 + -asii (付帯状況) → pžgiasii [pžg^ja:ɕi:] 「髭で (=髭をはやして)」

• 語と接語 (拡張語内)

- pžgi 「ひげ」 + =a (主題) → pžgia [pžg^ja:ɕi:] 「ひげは」

• 語と語の境界

- pžgi 「ひげ」 + atar 「だった」 → pžgiatar 「ひげだった」

• 統語的複合名詞の語根境界

- imi- 「小さい」 + aparagi 「美しい」 + uttugama 「妹」 → i.mi.a.pa.ra.gi.uttugama

ドメイン		現象	普通の合成語	Type 1 複合語	句
形態的緊密性		内部要素間への語の挿入	NG	NG	OK
		内部要素の順序替え	NG	NG/OK	OK
統語操作の可否		句の包摂	NG	OK	OK
		語根の疑問化	NG	OK	OK
音韻語性	形態音韻論	重子音化（連声）する	OK	NG	NG
		/ia/, /iu/の1音節化	OK	NG	NG
	韻律	語根が独自の韻律ドメイン	NG	OK	OK

音韻語性：語根が独自の韻律ドメイン

- フットをベースにしたHとLのトーンの交替 (Shimoji 2009)
- 交替のドメインは自立語 + 接語連続 (下地2018, 拡張語)
- Rule 1: 韻律ドメインは常にHで始まる

例	フット構造	トーン
*mi → mii 「目」	(mii)	(H)
maju 「猫」	(maju)	(H)
midum 「女」	(midum)	(H)
bikidum 「男」	(biki)(dum)	(H)()
oostoraria 「オーストラリア」	(oo)(sto)(raria)	(H)()()
oostoraria=n 「オーストラリアに」	(oo)(sto)(rarian)	(H)()()()

- フットをベースにしたHとLのトーンの交替 (Shimoji 2009)
- 交替のドメインは自立語 + 接語連続 (下地2018, 拡張語)
 - Rule 1: 韻律ドメインは常にHで始まる
 - Rule 2: 韻律ドメイン内では隣接するトーンが異なる

例	フット構造	トーン
*mi → mii 「目」	(mii)	(H)
maju 「猫」	(maju)	(H)
midum 「女」	(midum)	(H)
bikidum 「男」	(biki)(dum)	(H)(L)
oostoraria 「オーストラリア」	(oo)(sto)(raria)	(H)(L)(H)
oostoraria=n 「オーストラリアに」	(oo)(sto)(rarian)	(H)(L)(H)(L)

- フットをベースにしたHとLのトーンの交替 (Shimoji 2009)
- 交替のドメインは自立語 + 接語連続 (下地2018, 拡張語)
 - Rule 1: 韻律ドメインは常にHで始まる
 - Rule 2: 韻律ドメイン内では隣接するトーンが異なる
 - **Overriding rule (Rule 2を上書き): 韻律ドメインは常にLで終わる**

例	フット構造	トーン
*mi → mii 「目」	(mii)	(H)
maju 「猫」	(maju)	(H)
midum 「女」	(midum)	(H)
bikidum 「男」	(biki)(dum)	(H)(L)
oostoraria 「オーストラリア」	(oo)(sto)(raria)	(H)(L)(L)
oostoraria=n 「オーストラリアに」	(oo)(sto)(rarian)	(H)(L)(H)(L)

名詞句の場合

ドメイン内の トーン
(H)
(H)(L)
(H)(L)(L)
(H)(L)(H)(L)

- 修飾部と主要部**それぞれ**独立の韻律ドメインをなす（境界に#）

修飾部

ba=ga

私=の

(baga)_H #

主要部

ffa-gama

子-指小辞

(ffa)_H(gama)_L

修飾部

koozaburoo=ga

孝三郎=の

(koo)_H (zabu)_L (rooga)_L #

主要部

ffa-gama

子-指小辞

(ffa)_H (gama)_L

名詞句の音調

ドメイン内の トーン
(H)
(H)(L)
(H)(L)(L)
(H)(L)(H)(L)

- 修飾部が短い（1フットの）場合，後続の（=主要部の）韻律ドメインに吸収。そうならない場合もある。慣習化も関与(下地2018)

修飾部	主要部
ba=ga	ffa-gama
私=の	子-指小辞
(baga) _H	# (ffa) _H (gama) _L

↓

(baga) _H	(ffa) _L	(gama) _L
---------------------	--------------------	---------------------

修飾部	主要部
koozaburoo=ga	ffa-gama
孝三郎=の	子-指小辞
(koo) _H (zabu) _L (rooga) _L	# (ffa) _H (gama) _L

(koo) _H (zabu) _L (rooga) _L	# (ffa) _H (gama) _L
---	--

活用形容詞語形（普通の合成語）と Type 1 複合名詞の韻律

ドメイン内の トーン
(H)
(H)(L)
(H)(L)(L)
(H)(L)(H)(L)

活用形容詞語形（+接語）	グロス	フット構造	トーン
japa-f 「柔らかく」	柔らか-INF	(japaf)	(H)
japa-kar 「柔らかい」	柔らか-NPST	(japa)(kar)	(H)(L)
japa-kar=paz 「柔らかいかも」	柔らか-NPST=MDL	(japagi)(kar)(paz)	(H)(L)(L)
japa-kar=paz=doo 「柔らかいかもしれんよ」	柔らか-NPST=MDL=FOC	(japagi)(kar)(paz)(doo)	(H)(L)(H)(L)

Type 1 複合名詞	グロス	フット構造	トーン
japa-mucii 「柔らかい餅」	柔らか-餅	(japa)(mucii)	(H)(L)
japa-azma-mucii 「柔らかくて甘い餅」	柔らか-甘-餅	(japa)(azma)(mucii)	(H)(L)(H)
japa-azma-aka-mucii 「柔らかくて甘くて赤い餅」	柔らか-甘-赤-餅	(japa)(azma)(aka)(mucii)	(H)(L)(H)(L)

Type 1 複合名詞の韻律： 語根を1つの韻律ドメインと見る証拠

ドメイン内の トーン
(H)
(H)(L)
(H)(L)(L)
(H)(L)(H)(L)

banti=ga

私たち.EXCL=の
(ban)_H (tiga)_L #

ffa

子
(ffa)_H

Type 1 複合名詞	グロス	フット構造	トーン
japa-mucii 「柔らい餅」	柔らか-餅	(japa)(mucii)	(H)(L)
japa-azma-mucii 「柔らかくて甘い餅」	柔らか-甘-餅	(japa)(azma)(mucii)	(H)(L)#(H)
japa-azma-aka-mucii 「柔らかくて甘くて赤い餅」	柔らか-甘-赤-餅	(japa)(azma)(aka)(mucii)	(H)(L)(H)(L)

Type 1 複合名詞の韻律： 韻律的には句と同じと見ると・・・

ドメイン内の トーン
(H)
(H)(L)
(H)(L)(L)
(H)(L)(H)(L)

ba=ga **ffa**
私=の 子
(baga)_H # (ffa)_H

banti=ga **ffa**
私たち.EXCL=の 子
(ban)_H (tiga)_L # (ffa)_H

ffa
子
(ffa)_H



(baga)_H (ffa)_L

Type 1 複合名詞	グロス	フット構造	トーン
japa-mucii 「柔らかい餅」	柔らか-餅	(japa)(mucii)	(H)#(H) → (H)(L)
japa-azma-mucii 「柔らかくて甘い餅」	柔らか-甘-餅	(japa)(azma)(mucii)	(H)(L)#(H)
japa-azma-aka-mucii 「柔らかくて甘くて赤い餅」	柔らか-甘-赤-餅	(japa)(azma)(aka)(mucii)	(H)(L)(H)(L)

Type 1 複合名詞の韻律

- 結論：Type 1 複合名詞は韻律的には句と同じく、語根が独自の韻律ドメインを構成する。

(28) japa-azima-mucii	(japa)#(azima)#(mucii)	→	(japa)(azima)#(mucii)
柔らか-甘-餅	(H)#(H)#(H)		(H)(L)#(H)
「柔らかくて甘い餅」			
(29) ba=ga aza=ga mucii	(baga)#(azaga)#(mucii)	→	(baga)(azaga)#(mucii)
私=の 兄=の 餅	(H)#(H)#(H)		(H)(L)#(H)
「私の兄の餅」			

ドメイン		現象	普通の合成語	Type 1 複合語	句
形態的緊密性		内部要素間への語の挿入	NG	NG	OK
		内部要素の順序替え	NG	NG/OK	OK
統語操作の可否		句の包摂	NG	OK	OK
		語根の疑問化	NG	OK	OK
音韻語性	形態音韻論	重子音化（連声）する	OK	NG	NG
		/ia/, /iu/の1音節化	OK	NG	NG
	韻律	語根が独自の韻律ドメイン	NG	OK	OK

まとめにかえて

「複合」という用語を使うにあたって

- 2語以上が結びついた形態単位 (Marchand 1960: 11)
- 少なくとも2つの語根または語を語基とする単位 (Katamba 1993: 54)
- それ自体が語である2つ以上の要素からなる語 (Fabb 1998: 66)
- 自由形式または語幹からなる合成語 (Olsen 2000: 280)
- 語根の組み合わせからなる語 (Carstairs-McCarthy 2002: 59)
- 2つ以上の語彙素からなり、語ないし語幹として機能しうる単位 (Ralli 2013: 10)
- 語彙素として機能しうる複数の要素が1つの語彙単位 (lexical unit) となったもので、通常の統語的な単位になった場合と異なる音韻・文法的振る舞いを見せる (Bauer 2001: 695, Bauerの一連の論考も参照; 2003, 2005, 2009, 2017)

伊良部のType 1複合名詞は「複合」？

- 複合構造に関する通言語的な定義が定まっていない
 - Oxford Handbook of Compounding (Lieber and Stekauer 2009)
- 一般に、複合構造といえば
 - 語彙素（形式的には多く語根）の並置
 - 新たな語彙素の形成
 - 全体で（形態的に・音韻的に）1語という証拠がある
- これらの特徴を全て備えるものだけが複合構造？
- そうでない場合は句？あるいは「非典型的な」複合構造？
- 連濁する点にも再び注目（mma-cuu-zaki 「美味しくくて強い酒」）

伊良部のType 1複合名詞は「複合」語？

- 伊良部のType 1複合名詞
 - 語彙素（形式的には多く語根）の並置
 - ~~新たな語彙素の形成~~
 - ~~全体で（形態的に・音韻的に）1語という証拠がある~~
- 語彙素（語根）並置の構造が必ずしも「新たな語彙の形成」や「1つの語としてのまとまり」を~~含意しない~~。個別言語の複合の研究でさんざん言われてきていること（上掲書，“syntactic compounds”）。
- 「複合」を，上記3要素の束ねた構造に限定するなら，Type 1複合名詞は複合ではない。
- あるいは，複合を「語根並置」と同義とし，その語性や語彙性を問わない立場に立つと，複合の語性に関する言語間変異を問うことが意味を持つ。
- ひとまず，この立場に立って，Type 1を複合と呼び続けてみたい。

伊良部のType 1複合名詞は複合「語」？

- 主に形態的緊密性では「普通の」合成語に類似。

ドメイン		現象	普通の合成語	Type 1複合語	句
形態的緊密性		内部要素間への語の挿入	NG	NG	OK
		内部要素の順序替え	NG	NG/OK	OK
統語操作の可否		句の包摂	NG	OK	OK
		語根の疑問化	NG	OK	OK
音韻語性	形態音韻論	重子音化（連声）する	OK	NG	NG
		/ia/, /iu/の1音節化	OK	NG	NG
	韻律	語根が独自の韻律ドメイン	NG	OK	OK

再び、順序入れ替えの問題

- (14) jasdai-mma-zaki
安い-美味しい-酒
「安くて美味しい酒」
(*mma-jasdai-zaki)
- (15) aparagi-japa-midum
美し-柔らか-女
「美しくて穏やかな女」
(*japa-aparagi-midum)
- (16) jasdai-mma-zaki
安-美味し-酒
「安くて美味しい酒」
(*mma-jasdai-zaki)
- (17) aparagi-japa-midum
美し-柔らか-女
「美しくて穏やかな女」
(*japa-aparagi-midum)

- 語彙的にこの並びが決まっている？ (cf. mi-pana 「顔」, mma-zza 「父母」)
- 文法規則としての制限？
cf. 英語の修飾形容詞の順序制限 (Thompson 1988) : big white house/*white big house
- どちらかによって、語っぽいか句っぽいかの評価に大きく関わる。
- 順序替えの事実は宮古語研究でほとんど言及がない (下地2018, 周2019)。いろいろな組み合わせを試して、さらなる調査が必要。

複合操作の繰り返し：句と異なる

- 3語根 (Adj-Adj-N) までなら容認度も安定。それ以上になると、2形式に分割するほうが好まれる。
- この「含められる語根の数」に（慣習的な）制限がある点もまた、形態的緊密性と同様、句と大きく異なる点。

(13) **japa-azima-mucii**

柔らかい-甘い-餅

「柔らか(くて)甘(い)餅」

形容詞

属格

複合名詞

(14) **japa-azima-mma-mucii**

柔らかい-甘い-美味しい餅

「柔らか(くて)甘(くて)美味し(い)餅」

(15) **japaa-japa=nu azima-mma-mucii**

RED-柔らかい=GEN 甘い-美味しい餅

「柔らかい, 甘(くて)美味し(い)餅」

Type 1 複合名詞：語か句か？

- 主に形態面と「繰り返し」制限では「普通の」合成語っぽい。
- 以下のような追加の観点を増やしていても、**記述する者のスタンス**が定まらなければ「語か句か」問題は解決しない。
- **句っぽい側面**：音節構造
 - bikidum-vva「息子（男-子）」
 - 語中の3子音連続は破格。
 - 音節構造的に2語扱い： bikidum#vva
- **どっちかわからない側面**：情報構造（池間方言に関して周2019も参照）
「大きくてどんな家がいい？」→
 - ^{Ok}kuku-kicgi-jaa=dara（大きい-綺麗-家=だ）「大きくて綺麗な家だね」
 - ^{Ok}kicgi-uku-jaa=dara（綺麗-大きい-家=だ）「lit. 綺麗で大きい家だね」
 - 句なら、旧 → 新の順序じゃないと変だと判定される。
 - 形態構造なら、情報構造で順序が決まるわけではない。
 - 複合の場合、どっちも許されるが、第一回答は旧 → 新

Type 1 複合名詞の語性

- 2つのスタンス
 - ある特徴を取り出して語をひとまず定義し、「語でも句でもない」レベルにおく。すなわち、「拘束句」（宮岡2014）として。
 - あるいはプロトタイプの的に、語と句に連続性を認め、程度問題とする？

ドメイン		現象	普通の合成語	Type 1 複合語	句
形態的緊密性		内部要素間への語の挿入	NG	NG	OK
		内部要素の順序替え	NG	NG/OK	OK
統語操作の可否		句の包摂	NG	OK	OK
		語根の疑問化	NG	OK	OK
音韻語性	形態音韻論	重子音化（連声）する	OK	NG	NG
		/ia/, /iu/の1音節化	OK	NG	NG
	韻律	語根が独自の韻律ドメイン	NG	OK	OK

「拘束句」（宮岡2014）として整理するスタンス

- Shimoji (2008), 下地(2018)は（暗に）この立場
 - Type 1複合語根 vs. 接語を, 「ミラーイメージ」として整理
 - 音韻・形態いずれかの自立性があれば語性あり（両者の共通点）
 - 拡張語とType 1複合名詞はそれぞれ宮岡のいう拘束句
 - Type 1の統語的な諸特徴は, 拘束句以上の結節レベルでの現象, とみる。

	形態的に自立	形態的に拘束
音韻的に自立	自立語	Type 1複合の語根
音韻的に拘束	接語	接辞

ドメイン	現象	普通の合成語	Type 1複合語	句	
形態的緊密性	内部要素間への語の挿入	NG	NG	OK	
	内部要素の順序替え	NG	NG/OK	OK	
統語操作の可否	句の包摂	NG	OK	OK	
	語根の疑問化	NG	OK	OK	
音韻語性	形態音韻論	重子音化（連声）する	OK	NG	NG
		/ia/, /iu/の1音節化	OK	NG	NG
	韻律	語根が独自の韻律ドメイン	NG	OK	OK

「拘束句」（宮岡2014）として整理するスタンス

- Shimoji (2008), 下地(2018)は（暗に）この立場
 - Type 1複合語根 vs. 接語を, 「ミラーイメージ」として整理
 - 音韻・形態いずれかの自立性があれば語性あり（両者の共通点）
 - 拡張語とType 1複合名詞はそれぞれ宮岡のいう拘束句
 - Type 1の統語的な諸特徴は, 拘束句以上の結節レベルでの現象, とみる。



	形態的に自立	形態的に拘束
音韻的に自立	自立語	Type 1複合の語根
音韻的に拘束	接語	接辞

ドメイン	現象	普通の合成語	Type 1複合語	句	
形態的緊密性	内部要素間への語の挿入	NG	NG	OK	
	内部要素の順序替え	NG	NG/OK	OK	
統語操作の可否	句の包摂	NG	OK	OK	
	語根の疑問化	NG	OK	OK	
音韻語性	形態音韻論	重子音化（連声）する	OK	NG	NG
		/ia/, /iu/の1音節化	OK	NG	NG
	韻律	語根が独自の韻律ドメイン	NG	OK	OK

語性をプロトタイプと見るスタンス

• 2つのスタンス

- ある特徴を取り出して語をひとまず定義し、「語でも句でもない」レベルにおく。すなわち、「拘束句」（宮岡2014）として。
- あるいはプロトタイプの的に、語と句に連続性を認め、程度問題とする？
 - 形態的な緊密性の2つの側面の相互の矛盾を無理なく扱える。
 - 「これが語として本質的に重要な特徴である」という（循環論に陥る可能性のある）想定をせずに済む。

ドメイン	現象	普通の合成語	Type 1 複合語	句	
形態的緊密性	内部要素間への語の挿入	NG	NG	OK	
	内部要素の順序替え	NG	NG/OK	OK	
統語操作の可否	句の包摂	NG	OK	OK	
	語根の疑問化	NG	OK	OK	
音韻語性	形態音韻論	重子音化（連声）する	OK	NG	NG
		/ia/, /iu/の1音節化	OK	NG	NG
	韻律	語根が独自の韻律ドメイン	NG	OK	OK

整理できていないが、今ぼんやり考えていること

- 語と接語の構造としての拘束句：本来、語であるものが、自立語に（音韻的に）従属して結節する。
 - 複合（とされる）構造の語性が問題になる場合、その結びつきの度合いによってはこのタイプの拘束句として考えて良い場合もある（宮岡2015）
 - 語が自立性を失い、（特に音韻的に）語内の要素のようにダウングレードされた感じ。
- Type 1 複合名詞としての拘束句：本来、語ではないものが音韻的に自立し、統語的にも語のように振る舞う、という構造。
 - なぜ、拘束形式が音韻的に自立し、しかも統語性を持つのか、直感的に理解しにくい。語を飛び越えて、句の内部要素としてアップグレードされた感じ。
- これらを同じ用語で呼んでも良いのか。